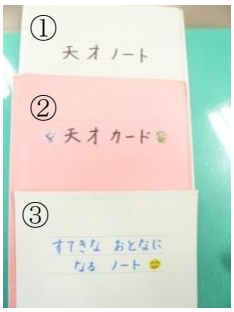
教材・支援機器活用実践事例

【ネーミングの工夫で子どもの意欲を引き出す指導】

子どもについて	学校・学年・学級	小学校　３年　（特別支援学級　自閉症・情緒）
	対象の障がい	自閉症スペクトラム　ＬＤ　ＡＤＨＤ
	授業形態	集団学習（個別の配慮）
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○学校生活全般において理解の難しさがある。 ○日常生活に生きる基礎的な学習の定着、コミュニケーション能力の向上が図れるよう指導している。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	【画像】  オリジナルの名前がついたファイル（上から） ①天才ノート（宿題ファイル） ②天才カード（家庭での様子の記録ファイル） ③すてきな大人になるノート（約束カード） ②の内容 ③の内容
	活用のねらい	○児童が自ら名前を付けることで、宿題等の活動に対しての拒否感から親近感がもって取り組めるようにする。 【天才ノート】･･･「宿題」に対する拒否反応が強いことから、その名称ではなく、本人が決めた「天才ノート」と呼び、少しでも家庭学習に取り組めるようにした。 【天才カード】･･･学校以外でも落ち着いて生活ができるように、家庭、学校、関係機関をつなぐツールとして活用した。また、本人との行動の振り返りのツールとしても活用し、適切な行動の意欲付け、価値付けとして活用した。 【すてきな大人になるノート】･･･家庭での問題行動にも対応できるようにファイル形式にし、持ち帰って活用できるようにした。また、行動改善等が見られた時には、花丸を付けるなどして、励ます時にも用いるようにした。
授業における支援 ・教材の配慮事項		○教材を作成するに当たっては、授業や学習に意欲的に取り組めるようにし、本児の困り感、家族の困り感に寄り添った支援ができるよう、関係機関とも連携しながら支援を行えるようにしている。 ○「天才カード」「すてきな大人になるノート」とも、叱ったり、注意したりするツールとして使用しないようにしている。特に「天才ノート」に関しては、褒める材料としてのみ使用するようにし、家庭と本児の信頼関係を崩さないよう（お母さんが書いたから、僕が怒られた！とならないよう）配慮している。
子どもの変容や評価		○これらの教材を活用したことにより、家庭での様子がわかるようになるとともに、家庭でのことも学校で指導できるようになった。また家庭での問題行動の原因を探るきっかけになり、保護者や関係機関と連携を取りながら、困り感に寄り添った支援ができるようになった。学校、家庭等でも落ち着いて生活ができるようになってきた。「天才ノート」を活用することで、自分から「今日はプリント２枚やってこようかな。」「漢字もっと書いてくる！」などと意欲的な言葉が聞かれるようになった。 ○今後も児童の実態に合わせ、内容等を変化させながら、褒めるツールとしての活用を図っていきたい。

＜参考資料＞　天才カードの内容

日にち	朝ごはん	天才ノート	できごと	今日の気もち